



コミュニティ しずおか

2020
1月
No.157



4世代交流で育む地域の輪

上長尾生涯学習部
(川根本町)

▼平成17年の合併を機に川根本町生涯学習推進協議会が発足し「地域の素材を活かして活気ある故郷づくり」をテーマに各地区が企画運営する生涯学習部が誕生した。上長尾生涯学習部では、8班から選任された役員が中心となり、世代を超えたコミュニケーションを図ろうと「ふれあい区民祭、門松づくり、視察研修」などを開催している。

▼上長尾地区(131世帯)の良いところは、地区の行事に乳幼児から高齢者までこぞって参加してくれる事である。特に毎年恒例のふれあい区民祭(運動会)は、乳幼児のいる家庭を筆頭に各世代の区民が必ず参加してくれるのが特徴。地区を牽引してくれる存在の元気な高齢者とよちよち歩きの子どもと一緒に「玉入れ」「パン食い競争」は大いに盛り上がる。

▼高齢化率50%が迫る中、上長尾地区では老いも若きも地域活動に積極的に参加してくれる。交流の場を設けることで、地域への愛着とつながりを深めているからであろう。今後も4世代が楽しく参加できる内容を企画していく。

◇代表:鈴木美佐雄さん

【情報提供・藺田喜恵子】

Topics トピックス

活動賞審査結果…………… P2~3
令和元年度「コミュニティ活動賞」
審査結果

クローズアップ(東部地域) …P6

地域訪問記(磐田市)…………… P7



「ミミック」
のじき・りえ

令和元年度「コミュニティ活動賞」

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、ここで紹介する優秀賞3団体ほか、別記のとおりです。なお、優秀賞、優良賞の表彰式を令和2年2月18日に開催するコミュニティフォーラム2020の席上で行います。

優秀賞

休耕田にひまわりを育て景観と農業への関心呼び起こす

浮島地区環境保全推進会(沼津市)



7月に開催しているひまわりコンサート

12年前に農協婦人部のひまわり植栽・ひまわり油の搾油の呼びかけに呼応し、地域住民の協力を得て耕作放棄地にひまわりの植栽を始めた。

この活動は、ひまわりの栽培だけでなく、コンサート、写真撮影会、写真コンテストと表彰、写真展示会、ひまわり種の収穫、ひまわり油を使った試食、ひまわり油の配布、閑散期での菜の花栽培など、年間を通じた多種多様な取組を試みている。

開始から12年継続したことにより、浮島ひまわりのイメージが定着し、地域を代表するシンボルとなった。有名旅行誌や雑誌にも取り上げられ、SNSなどの拡散もあり、開花時期にはイベント開催日だけでなく、地域の内外から毎日多くの人々が訪れている。また、育苗、植付などの活動に地

域住民に参加してもらったことにより、住民の郷土愛、連帯意識の向上にも寄与している。学校教育との連携を図ったことにより児童の情操教育や郷土への愛着喚起を図っているところである。

「自分が楽しい」をモットーに、里山を楽しい場所にする ふるさとを楽しくする会富士川(富士市)

旧富士川町の時代に、町の活性化のための「自然を活性化する」をテーマとした活動を行い、2年間の活動終了後、その仲間で荒廃した里山の復元を目的として発足した団体である。

平成7年に旧富士川町と野田山緑地公園を活動の場所として植樹許可を受け、栗や柿等の植樹を実施した。平成13年に栗拾い、里山体験のイベントを開始し、荒れた場所の伐開を2年かけて行い、現在の活動場所「こぶしの里」とした。さらに、平成15年から川遊び、リバートレッキングなどを行ってきた。こうした活動のほか、地域の自然をテーマとして活動する団体「富士川っ子の会」「鎮守の森を育てる会」の立ち上げにも協力してきた。



里山での保全、整備の活動

植付がうまくできずに試行錯誤を繰り返したことなど苦労したことも多かったが、富士市の里山復元の先駆者として他グループの立ち上げに協力したことなど地域に貢献してきた。

こころを入めた配食サービス！

磐田市ボランティア連絡協議会
豊岡支部給食グループ(磐田市)



あ・うんの呼吸で手際よく作っていく

食事作りの困難な高齢者をはじめ、配食サービスを必要な方々に1食300円のお弁当の配食を届けることにより利用者の「見守り安否」を確認する活動から始まった。

平成5年の発足以来、中断することなく継続して活動している。活動している給食ボランティアの年齢層は60歳～80歳であり高齢化しているが、本年度は若い世代が3名加入しており、年齢差を超えて活動の考え方などを若い人たちにも理解してもらうよう努めている。さらに、積極的に声掛けし、ボランティアとしての参加を促している。

また、恒例となっている小学生ボランティアによる独居老人への配食サービスは、学校行事と調整しながら、引き続き実施していくこととしている。

ボランティアと利用者とのふれあい企画「高齢者の集い」に招待した高齢者の皆さんの笑顔が、活動の励みになっている。

優良賞

ふれあい上宿	裾野市
KAWANE LOVE'S FACTORY	島田市
北区地域教育推進協議会 (愛称:自彊わくわく教室)	吉田町
中地区まちづくり協議会	掛川市
袋井市花の会	袋井市

※当協議会HPでも紹介しております。

奨励賞

熊坂小学区地域づくり協議会	伊豆市
特定非営利活動法人 奥駿河燦燦会	沼津市
沼津市大岡コミュニティ推進委員会	沼津市
コミねっと大岡「わたりの会」	
はなみずき有度	静岡市
細島町自治会	浜松市

審査総評 (望月誠一郎審査委員長)

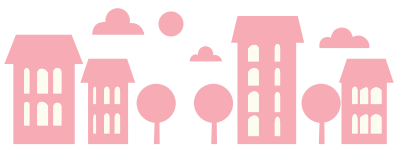
本年度は10市1町から13団体の応募があり、結果は別掲のとおり、優秀賞3団体、優良賞5団体、奨励賞5団体となりました。

審査方法は、あらかじめ各委員が応募資料をもとに、審査基準である地域性・主体性・普遍性・発展性・独創性、活動実績について事前評価を行い、審査会でその評価を審議し、各賞を決定しました。

本年度の特色としては、長い歴史を持つ団体に加え、近年の地域社会の課題に積極的に取り組む若い世代の組織など、多様な団体の応募がありました。

活動内容は、休耕田の活用、里山の再生、子育て支援、交通弱者の生活支援など、目的が特化したものや、地域を良くするための生活、文化、環境保全など地域課題全般に取り組んでいるものなど、地域の特性に応じた様々な活動がみられました。

応募総数はここ数年減少傾向にあります。次年度は、より広範な市町や構成団体からの積極的な推薦、様々な地域活動をされている団体からの応募を期待しております。



まちからむらから



南伊豆町

身近にある紙を使ったアートワークショップ

かみなみかみ



使用済みの紙袋を使ったワーク

▼子どもの父兄として出会った40代の立派なおじさんユニット「かみなみかみ」。デザイン関連の仕事をしているパンスケさん(赤池さん)とアート好きなやまねこさん(山根さん)が身近にある紙を使い、だれでも気軽にアートを楽しむワークショップを開催している。

▼美術に触れる機会が少ない地域でも、「日々の暮らしの中にアートがあるんだ!」ということ、地域の方々と楽しみたいという思いから始まったこの活動は、今年で4年目を迎えた。

▼ワークでは、子どもに付き添って来た大人の方が夢中になってしまうこともしばしば。最近、リラックスした中で創作活動に入ってもらおうと、最初に「始まりの歌」を歌い始めた。本業との両立が大変な時もあるが、楽しみにしている人たちの為に、何より自身たちが楽しむ為に活動を続けていく。※名前の由来は、紙と地区名の南上みなみかみの掛け合わせから。

◇代表: 赤池完介さん山根光一郎さん(問合せ・090-6366-5282(山根さん))

【情報提供・山根美果】

小山町

みんなでキラキラ輝いています!

おやま☆キラキラ塾

▼小山町社会福祉協議会主催の女子力アップセミナーからスタートし、平成28年、有志5人が「女子力とは=人間力」なのでは?との思いで「人と繋がる女子力アップ、大人の友だち作り」を活動のテーマに講座の企画運営を始めた。

▼今年度は「お砂糖博士のほん糖学」「小山町内の寺社巡り」「座禅体験」を開催。当初は講座を企画するも参加者が集まるか不安でしたが、最近リピーターが増え町外からの参加者も増えている。どの講座も「知らない事を知り、学べる喜びを味わえます」という感想が聞こえて嬉しい。

▼年度末に行う「振り返りの会」で参加者からの希望を聞き、次年度の講座を企画するのも、キラキラ塾ならではの取組だ。スタッフは、将来的にキラキラ塾があるから小山町に住みたいと思ってもらえるような新しい文化を創造し、小山町から発信していきたいとの夢を持って活動している。

◇代表: 武藤仁美さん



町内神社めぐりの1コマ、説明に耳を傾ける

【情報提供・勝亦智子】

藤枝市

ちよっくらよってみざあ

ちよっくらよってみざあ



いろんなメニューを用意し楽しんでもらう

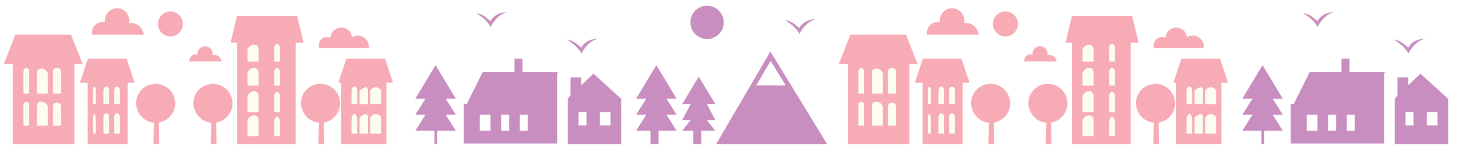
▼藤枝市平島上公会堂で活動する「ちよっくらよってみざあ」は、自治会役員や住民有志のボランティア19人が運営するサロン活動である。毎月2回、午後の2時間を使い、地域住民に楽しい時間を過ごして元気になってもらえるよう憩いの場を提供している。

▼平成22年、民生委員だった方が、当時自治会役員だった梅原代表に相談したことがきっかけで始まった。代表と会計の堀江さんが中心になり企画し、軽い運動や茶話会、そば打ち教室や健康講座などを開催。好評なのは「育った平島に恩返しをしたい」とそば屋店主の一言で始まったそば教室。とは言っても高齢者の方々は、腕を動かすよりも口を動かす方が良いらしく「少人数で参加者分のそばを打つのは大変」と代表は笑う。

▼毎回20人程度が参加する。当日の運営は、都合の良い人が出ることで負担を軽くしている。今年で10年目を迎え、ボランティアも高齢化してきたが「ここに来ると楽しい」という声がある限り続けていく。

◇代表: 梅原勝彦さん(問合せ・090-6966-8369)

【情報提供・大石幸雄】



御前崎市

地域を守り、皆で農業を楽しもう！

合戸農業を考える会

▼秋になると合戸公民館の隣に一面のコスモ畑が現れる。管理している合戸農業を考える会は、荒地や耕作放棄地を利用し、現在ジャガイモやサツマイモ、落花生の栽培を楽しんでいる。会員50人(男40人、女10人)で、地域を守りつつ定年退職者の楽しみの場として今年で16年目になる。

▼当初は、作業をするも人手が足りない、同じ顔触ればかり…。という事もあったが、最近は人と話すのが楽しいと毎回30~40人が参加するようになった。以前と比べ、会から地域奉仕活動に参加する人が増え、まとまりができていくという。

▼過去には、雑草除去のため牛をレンタルしたり、20反の菜の花を育て菜種油を販売していたこともあった。「もっと色々なことに挑戦したい」と語る一方、「今のまままでの活動でも皆で協力して作業することが一番楽しい」と増田代表は笑顔で語ってくれた。

◇代表:増田 登さん(問合せ・0537-86-2159)



大きく育ったサツマイモ

【情報提供・二俣直子】

浜松市

食で伝える万葉文化

浜北万葉食研究会
「月草の会」



万葉のお茶、碁石茶(発酵茶)の製造

◇代表:野中正子さん(問合せ・万葉の森公園053-586-8700)

▼浜北区万葉の森公園内にある万葉亭では、万葉集が詠まれた時代の食事を楽しめる。万葉食を通じて万葉文化にふれてもらおうと浜北万葉食研究会「月草の会」が提供している。

▼きっかけは、食推協の仲間とのウォーキング時に、公園の建物に調理場があることを知り「私たちで何かできないか、万葉の食事を作れないか」と考えた。市生涯学習課の呼びかけで、10回の講習会を経て平成6年に会を発足。女性12人(現在平均72歳)で活動が始まった。当時の食事について木簡や万葉歌4516首を調べ、食材の採取、栽培、加工や調味料作り、甘味料がほとんどなかった古代に近い味付けにするのか調理方法に研究を重ねた。

▼万葉食体験講座、食材の採集加工など、会員皆で楽しんで活動している。発足から25年、古来在来種を守る運動と私たちにしかできない食事の提供をするために、これからも研鑽に努めていく。

※万葉食の提供は予約制で3名以上から。

【情報提供・佐藤勝彦】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます(アドレス <http://www.sizcom.jp>)

No.	市 町	活 動 名	主 催 者	趣 旨・目 的	月 日
1	伊豆市	自然発見塾	NPO法人高原倶楽部	自然観察、農業体験、竹細工体験等で地域社会の活性化。	月1回
2	三島市	高齢化を見据えて~住民同士の交流~	芙蓉台自治会	誰とでも顔を合わせられ、安心して住める地域。	月1回 第3水曜日
3	吉田町	湯日川の豊かな自然を守ります。	湯日川をきれいにする会	湯日川の豊かな自然を守り、美しい景観を育てていく。	令和元年9月22日(日) 年4回
4	御前崎市	新野かかし祭り	新野未来塾	新野にはたくさんの宝物があることを発信していく。	令和元年10月6日(日)~18日(金)
5	御前崎市	御前崎海辺の花咲山	御前崎エコクラブ	賑わいの創出へと交流を生む地域づくり仲間づくりに貢献。	役員会:月1回 作業案内:毎日
6	菊川市	高校生と小中学生が大型壁画を制作!	特定非営利活動法人アートコラールさくがわ	「出会いとつながりをデザイン」をモットーに、まちの活性化。	令和元年9月19日(木)
7	袋井市	地域に根ざした生け花活動	浅羽いけばな愛好会	子どもたちの健全育成や地域住民の文化向上に寄与する。	通年
8	森町	食べて、しゃべって、みんなおたっしや!!	片瀬おたっしや会	高齢者を孤独にさせない事。地域みんなでおたっしやを目指す。	月1回
9	湖西市	こさい花いっぱい運動!	なすび会	生きがい作りの場となる花いっぱい運動。	植付:年3回 作業:通年

クローズアップ

創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。



偏光板を使用した紙コップ万華鏡を覗き込む男の子

クリップモーターを手にした釜洞さんと五十嵐さんに取材

設計通り
浮き沈みする
浮沈子に喜ぶ



孫のような子どもたちに「理科」の楽しさを ～大学のOB組織が立ち上げた出前理科教室～

蔵前理科教室ふしぎ不思議・静岡 (略称:くらりか静岡)

小学校の「理科」というと何を思い浮かべますか？植物や魚を育てること、身の回りの不思議に親しむこと等いろいろな思い出があると思います。中でも「実験」は驚きや疑問を通して、理科への興味を沸き立たせる大事な経験です。

今回、孫のような子どもたちに理科の面白さや楽しさを、工作や実験を通して体験してもらおうと大学のOBつながりで発足した団体を取材しました。第二の人生を迎えた方々へのエールでもある活動をご紹介します。

理科離れに危機感を抱いて

東京工業大学同窓会の中で立ち上がった理科の魅力伝えるボランティア組織「くらりか」。同窓会役員をされていた代表の釜洞さんは、他県の「くらりか」が出前理科教室を熱心に展開されていることを耳にしていた。定年を数年後に控え、地域の役員として子どもへの関わり方に関心を持っていたこともあり、静岡支部を立ち上げようと、平成23年から準備を始めた。4人の仲間が始まった活動も7年が経ち、現在10人の会員(64～80歳)と3人の協力会員に増えた。主に県内東部地域の子ども会、小学校、放課後児童クラブ、イベント会場などで開催し、牛乳パックのポンポン船、クリップモーター、紙コップで万華鏡etc.どれも身近な材料を使った工作と実験を企画・実施している。

昨年度は39教室、1000人余の参加まで広がった。活動資金源は出前教室での謝礼や同窓会、地元有志企業の寄付で賄っている。

子どもたちからの刺激を次の糧にして

開催地が広域であることから車は欠かせないのだが、最近は高齢による免許返納者も出てきた。また、1教室の参加者20～30人分の実験材料を手作りで用意するのも負担になってきているが、講座終了後、子どもたちに書いてもらったアンケートには率直な感想がある。「わかんなかった」に考えさせられ、「またやりたい」に励まされている。

人材の芽を育む

取材の中で、「やる気」や「好奇心」という言葉が語られた。それは子どもたちに向けての言葉だと思っていたが、取材をする内に、子どもたちの反応に触発され会員の皆さん自身が受け止めている言葉でもあるのではないかと思います。

「理科教室」の最重点は、「自分で作ったものを動かしたり観察したりする」ことだと言う。普段自分で物を作る経験の少ない子どもが、自分で作った工作をきっかけに理科好きになることで、将来日本の科学技術を支える人材の芽を育てていると思うと、次はどんな反応があるのか楽しみだろ。この活動が子どもたちのための活動であると同時に、定年後の生きがいを実現するモデルとして発展していくことを期待します！

※くらりか静岡の活動についての問い合わせは下記へ

◇くらりか静岡代表：釜洞文夫さん

(問合せ・<http://kurarika.net> 090-3257-8852)

【情報提供・五十嵐葉子】



レポート：高村 光 編集委員

地域訪問記

長く続いている団体を紹介します。

ポリ袋にパスタを入れ調理する
パッククッキング



園児に教える
花火教室



左から
半場さん
木村さん

『広げよう。誰もができる防火・防災』

磐田市女性防災クラブ (磐田市)

昭和57年に発足した磐田市女性防災クラブは、日頃家庭で火気を取り扱う機会の多い女性の方に、防火や防災の簡単な体験を通じて「今すぐ役立つ！・誰にでも出来る！」防火・防災の知識を学んでいただき、「自分の家は自分で守る。自分たちの地域は自分たちで守る。」をモットーにした女性120人のクラブです。会員は各自治会から毎年選出される方とイベントや講座に参加し入会するフリー会員から成ります。消防署と連携をとりながら、応急手当講習会、消防署の保育園での花火教室の補助、消防団と合同夜警、消防学校体験入学等、研鑽に努めています。

知らない事からの出発

取材を受けてくださったお二人にお話を伺うと、会長の木村叔恵さんは7人目のお子さんが保育園に入った時、自治会の選出で入会。消火器の使い方も知らなかったが、防災を学ぶ大切さに目覚め、多くの女性に学んでほしいという願いから25年活動を続けています。

副会長の半場きよ子さんも自治会の選出から会員になって10年余りになります。人のため自分のため役立つことだからこそ続けていると話されました。

女性目線を活かしたい

会の悩みは、大半の会員は1年の任期終了と共に抜けてしまうことです。37年間の活動で防災知識を持つ女性が各自治会にたくさんいるのは心強い事ですが、会員の活躍の場は、地域差があるのが現状です。任期中

または任期終了後に教わったことを地域に還元できれば、女性に家族や地域を守る力があることのPRにつながると考えています。そこで会長を中心に、子育てサロンやシニアサロン、公民館の講座で袋を使った料理「パッククッキング」など、手軽な防災をみなさんにご紹介しています。ここで、フリー会員の呼び込みにもつながっています。

もしもの時のために

当初、消防団の防火・防災とは違う活動であっても「女性の出る場でない」という雰囲気がありました。長い活動の結果、女性の意見が出しやすくなり、防災倉庫や公民館に哺乳瓶や生理用品を置くなど、女性ならではの経験や気づきが防災活動に反映されてきているそうです。

最後にもしもの時のために家庭で行ってほしいことについて聞くと…。半場さんは「生理現象はどうにもならないので、簡易段ボールトイレの作り方を覚えると良い」と、木村さんは「各家庭事情は異なるので、お母さんたちに自分の家族を守るにはどうしたら良いのか考えてほしい」とおっしゃいました。

◇代表：木村叔恵さん（問合せ・080-5116-0082）

【情報提供・安部詠司】



レポート：市川頼子 編集委員



中部支部研修会延期開催決定
 令和二年二月五日(水) 会場・藤枝市
 青島北地区交流センター

**アフター研修会&東部支部研修会
 延期開催決定**
 令和二年二月七日(土) 会場・熱海市
 起雲閣

地域活動に関心のある方へ！ 募集します

※お問い合わせ、お申し込みは当協会へ

コミュニティ・フォーラム2020

静岡県コミュニティづくり推進協議会

設立40周年記念事業

変わる世の中 変わらないコミュニティの役割

少子高齢化、人口減少が進む中、あなたのお住まいのコミュニティはいかがでしょうか。地域の様々な課題を解決していくため、コミュニティの果たす役割はますます重要になっています。令和の時代を迎え、これからのコミュニティづくりについて、どのように取り組んでいったらよいかを考えていきたいと思えます。

2020 **2/18(火)**
10:00~15:00

参加費
無料
定員
300人

場所
**グランシップ
会議ホール風**

森を元気に 人を元気に ～ある里山にある動物園のコミュニティづくり～



木下 直之 氏
静岡県立美術館館長、
東京大学名誉教授



山本 茂行 氏
富山市ファミリーパーク
名誉園長

プログラム

- 10:00 開会
- 10:15～ 表彰式
・令和元年度コミュニティ活動賞
・パネルディスカッション
- 10:30～ パネルディスカッション
- 12:00～ 昼食・休憩
- 12:45～ 事例発表
・コミュニティ活動賞
優秀賞受賞団体
- 13:30～ 記念トークセッション
「森を元気に 人を元気に」
講師
木下直之氏(静岡県立美術館館長)
山本茂行氏
(富山市ファミリーパーク名誉園長)
- 15:00 閉会

パネルディスカッション「変わる世の中 変わらないコミュニティの役割」

- パネリスト
伊藤 光造氏 NPO法人くらしまち継承機構理事長
平田 厚氏 静岡福祉文化実践研究所長
望月誠一郎氏 地域デザイン研究所長
飯倉 清太氏 NPOサプライズ代表
- コーディネーター
川口 良子氏 合同会社デザイン・アープ代表

※参加には入場整理券が必要です。
 ※昼食700円で斡旋します。
 申込時に必要の有無をお知らせください。
 電話 054-251-3585
 FAX 054-250-8681

コミねっと会員の皆さん！ 貴方の作品を展示してみませんか？

静岡市グランシップで開催する「コミュニティ・フォーラム 2020」において、ロビー等での「コミねっと会員作品展」の企画をしております。

コミねっとの皆さんといえば、多種多様な技術や趣味をお持ちの人材宝庫集団。お家や地域の中だけに埋もらせておくのはもったいない！県内各地からお越しになる皆様に、貴方の(貴団体の)作品や日頃の活動をご紹介します。

「貴方自身を発信して、 一緒にフォーラムを盛り上げましょう！」

- 募集出品** 写真、手芸、陶芸、書道、こみねっと活動報告、広報紙、紙芝居 etc. (自由)
- 出展希望者** コミねっと会員。事前申し込みがあった方に限ります。
当日出展は、ご遠慮ください。
- 申込締切日** 1月31日(金)

※展示希望の方はまずは事務局にご連絡ください。

編集・発行

地域情報を
お寄せ下さい！

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階 [TEL] 054-251-3585 [FAX] 054-250-8681
 [URL] <http://www.sizcom.jp> [E-mail] sizucom0829@po.across.or.jp